

各発達段階における安全教育の指導内容例

生活安全編



- ・幼稚園
- ・小学校
- ・中学校・高等学校
- ・特別支援学校
- ・資料・ワークシート

交通安全編



- ・幼稚園
- ・小学校
- ・中学校・高等学校
- ・資料・ワークシート

災害安全編



- ・幼稚園
- ・小学校
- ・中学校・高等学校
- ・特別支援学校
- ・資料・ワークシート

「各発達段階における安全教育の指導内容例」について

発達段階に応じて、具体的にどのように安全教育に取り組んでいけばよいか、指導例を示しました。

これらを参考に、各学校園において、児童生徒等の実態、地域の実態に合わせ、学校教育活動全体を通じて計画的な安全教育への取組を実施してください。

☆「各発達段階における安全教育の指導内容例」の構成

災害安全		2 小学校における災害安全に関する指導の内容例		小学校
	ねらい	項目	指導内容（例）	
火災時の安全	火災時の時に起こりやすい危険な状況を理解し、適切な行動ができるようにする。	・火災時の時の危険	低・火のまわり方と煙の危険。	<ul style="list-style-type: none"> ・火のまわり方と煙に対する行動の仕方と避難の方法 中・火災の原因と危険 ・火災情報に基づいた判断と安全な行動 ・避難場所の確認 高・火災が発生したときの心構え ・安全な行動の要素、燃焼の3要素の理解と可能な対応 ・様々な場面に応じた避難の方法
		・状況に応じた安全な行動	中・火災の原因と危険	
		・避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方	高・火災が発生したときの心構え	
地震及び自然災害時の安全	地震発生の場合、危険な行動に走りやすいことを理解し、安全な行動ができるようにする。地域によって津波の発生があることも理解し、安全な避難ができるようにする。	・地震による危険を理解し、安全に行動できるようにする	低・地震・津波の時の危険	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難場所の確認と避難の仕方 津波の危険 中・地震・津波情報（緊急地震速報）に基づ ・ ・ 高・地 ・ ・
		・津波や土砂災害などの二次的災害を理解し、安全に行動できるようにする	中・地震・津波情報（緊急地震速報）に基づ	
		・避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方	高・地	
火山災害時の安全	火山災害が発生した場合の危険を理解し、安全な行動ができるようにする	・火山活動による危険と避難の仕方	低・	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 高・
		・火山噴火の情報の収集	中・	
			高・	

安全教育の3領域について、発達段階ごとに指導しておきたい内容を一覧にしました。

災害安全
① 災害時の安全な行動と避難行動
小学校

ねらい 「災害時の危険を理解し、安全な行動と避難の仕方を知る」

指導のポイント
危険に対する正しい理解と、状況に応じた安全な行動

災害時、自分や周囲の命を守るために、それぞれの災害の危険を理解し、安全に行動できるようにする。発達段階に応じて、様々な場面に応じた避難経路と避難場所の確認、誘導の仕方を見につける。

目指す子どもの姿

いざというときは 状況に応じた避難行動をとる

- それぞれの災害の危険を理解し、安全な行動をとる
- 自分の安全を確保し、周囲にも声をかけて避難する

学習のポイント	火災のときは	気象災害のときは	地震・津波のときは
	<ul style="list-style-type: none"> ・煙を吸わないようにする ・あわてないで早く避難する ・低い姿勢で避難する ・消火中、天井に火が移ったらすぐに避難する ・逃げ遅れたら外に知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に耳を傾け、危険が迫る前に早めに避難する ・避難路上が浸水しているときには、高い所に避難し、救助を待つ ・雷発生時には外に出ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険なものから離れる ・頭を保護する ・緊急地震速報を活用して、身を守る ・沿岸部では津波が来ると考え、高いところへ避難する

自助・共助のポイント **一度避難したら、もどらない**

避難をするときには周囲の人に声をかける

学習支援のポイント

- ・学校や地域の実情に即して予想される様々な状況を想定し、繰り返し指導の徹底を図る。
- ・視覚教材等を利用し、わかりやすく指導する。
- ・社会科学や理科で自然災害につながる内容を学んだことを生かしながら災害に対してどのように身を守ったらよいか、実際に訓練しながら学ばせる。

指導しておきたい内容について、「ねらい」「指導のポイント」「目指す子どもの姿」「学習のポイント」「自助・共助のポイント」等が一目でわかるよう、まとめてあります。

災害安全 第5学年 小学校

実践例 「風水害時に命を守る安全な行動ができるようになる。」

教科等における安全教育

<新しい知識の習得> <思考力・判断力・表現力の育成>

理科
「流れる水の働きと土地の変化」
・雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わります。増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。
「天気の変化」
・天気の変化は、気象などの気象情報を用いて予想できること。
(台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害についても触れること)。

社会科
「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について」
・自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることも理解すること。
・災害の種類や発生する位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

日常的な安全教育

「朝の会・帰りの会」等で

<天候状況に合わせて>
・暴風雨、洪水等による危険及び安全な行動の確認(外出先を変える、情報を収集する、早めの避難、河川に近寄らない等、状況に応じて)。
・災害に備わらないための安全な行動を知る。

<災害発生をうけて>
・実際に発生した災害を教訓に、自分たちの行動を振り返り、災害時の安全な行動を確認。
・災害に備えて事前に行えること、気をつけることを考え、実践する。

定期的な安全教育

特別活動・学校行事

<避難訓練・引き渡し訓練>
・近隣の川が氾濫する可能性を想定した避難訓練(校舎最上階への避難等)。
・通常の引き渡し訓練の際、下校時に保護者とともに、通学路の危険箇所について確認をする(落下物、樹木の危険、崩落、マンホール)。

<実践に結びつける>

<長期休業前の指導>
・暴風雨、洪水等による危険及び安全な行動
・台風への備え及び安全な行動
・地域の河川、海へ近づくことの危険
・「警戒レベル」等、各種警報の意味
・旅行先での安全な行動(山開閉、忌押配)

教科等で学習した基礎知識を基に、日常的な安全教育、定期的な安全教育の場で繰り返し学習していくことで、気象災害に対する理解を深め、安全な行動に結びつける。

学校教育活動全体を通じて安全教育を行っていく上で、「教科等における安全教育」「日常的な安全教育」「定期的な安全教育」をどのように関連付けて取り扱うと効果的であるかを実践例として示しました。

小学校 「警戒レベル」って何？

警戒レベル	避難行動	避難情報等
5	すでに災害が発生している状態です。 命を守るための最善な行動を行います。	災害発生情報 (市町村が発表)
4	災害に避難する準備が完了し、避難行動を開始する必要がある状態です。安全な行動をお願いします。	避難勧告 避難指示(緊急) (市町村が発表)
3	避難に時間を要する人(高齢者の方、障害のある方、乳幼児等)とその家族等は、避難し、その他の人は避難の準備をします。	避難準備・高齢者等避難開始 (市町村が発表)
2	避難に要する、ハザードマップ等により、早めの避難行動を推奨します。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
1	大雨による土砂災害等への心構えを促します。	早期注意情報 (気象庁が発表)

危険度(きけんど) ↑ ↓

○警戒レベル1～4が発表されたときに、すぐに避難できるように、いざというときの避難場所や、避難経路を、事前にしっかりとハザードマップを確認し、把握するようにしてください。避難するに当たっては、避難がわかるのにも関わらず避難しないこと、危険な行動を、事前に把握し、事前に避難行動を推奨します。

教科指導や学級指導をする際に、児童生徒等に配付できるような、参考資料もいくつか用意しました。

災害安全 小学校 ワークシート

安全に意下校するために(気象災害編)

集中豪雨の危険性

大雨の時に気をつける場所

道路に水がたまっていました

気象の基礎は、気象情報等であるといえ、よく知ることができます。天気よければ晴れて、台風が来ると、空気が冷たくなり、雨が降ったり、また、台風が来る時に風が強くなったり、暴風や暴風が降り出すので、登下校の時には十分に気をつける。

気象の基礎は、気象情報等であるといえ、よく知ることができます。天気よければ晴れて、台風が来ると、空気が冷たくなり、雨が降ったり、また、台風が来る時に風が強くなったり、暴風や暴風が降り出すので、登下校の時には十分に気をつける。

気象の基礎は、気象情報等であるといえ、よく知ることができます。天気よければ晴れて、台風が来ると、空気が冷たくなり、雨が降ったり、また、台風が来る時に風が強くなったり、暴風や暴風が降り出すので、登下校の時には十分に気をつける。

気象の基礎は、気象情報等であるといえ、よく知ることができます。天気よければ晴れて、台風が来ると、空気が冷たくなり、雨が降ったり、また、台風が来る時に風が強くなったり、暴風や暴風が降り出すので、登下校の時には十分に気をつける。

児童生徒等が、安全上の課題について、自ら考え、主体的な行動につなげていけるようなワークシートもいくつか用意しました。

ここに掲載している指導例は、安全教育の指導内容の一部となります。その他の指導内容についても、各学校園において工夫して、計画的に取り組んでください。

